

令和3年4月26日(月)

1 開会のあいさつ(教育長)

市の学校再編計画の目玉として、平成26年に小中一貫校が成立、後に義務教育学校となった。9年間を地域と連携した教育を行うものとする。主体的に学校の運営に参画してほしい。

2 説明(栗原市学校運営協議会規則より)

- ・6条 評価を行う
- ・9条 任期は2年、再任あり
- ・10条 守秘義務
- ・12条 会長、副会長をおく
- ・13条 会長が招集する。本日は附則2により、教育委員会が招集した。

3 自己紹介

- ・学校運営協議会委員8人(2人欠席)、教員7人、市教育委員会職員2人(1人欠席)

4 会長・副会長の選出

会長 個人情報保護さん・・・子どもの幸せのために役立つ会議にしたい。

副会長 のため非公開さん

5 学校運営方針について ※別紙資料参照

○教職員について

- ・50代以上が多い。中間層が少ない。今年度は初任が3名。
- ・北部地区に教員免許保持者が少ない。

○学力向上について

- ・秋田型の授業スタイルを基本とし、校内研修を行っている。

○児童・生徒の実態

- ・基礎基本の定着は県平均以上だが、応用力がやや低い。
- ・家庭学習に毎日取り組んでいるが、時間が短い。
- ・いじめを許さない意識が県平均より高い。健康・体力はコロナの影響で向上していない。

※学校運営方針について承認された。

6 協議

質問 ○児童生徒1人に1台のタブレット端末配布はどうなっているのか。

→市内の全児童生徒に配布されている。使い方について研修中である。

○PCに詳しい職員などの配置はされるのか。

→配置はされていない。校内で詳しい職員を情報化推進リーダーとしている。

意見 ○行政区内の児童生徒は知っているので声がけをしているが、他地区の児童生徒には声がけしにくい。知らない人とは話さないという指導もあるので、気まずいことがある。

○学校の様子が知りたいので、運営協議会委員に学校だよりを送付してほしい。

○アンケート結果で、いじめに対する指導について「分からない」と回答している保護者が14%いる。学校の取組について積極的に発信していくことが必要である。

○応用力が低いのは、家庭学習が少ないからではないと思う。学校では具体的な取組をしていると思うので、それを発信してほしい。

○自分の考えをはっきりと伝えることができる児童生徒が少ないということだが、自己評価で数値が変わるので、基準を明確にするとよい。

7 その他

- ・本会の今後の日程については、学校と相談しながら決めていく。会長が招集する。

8 閉会のあいさつ

金成小中学校 学校経営説明

1 教職員について

(1) 県費負担教職員

- ・前期課程（副校長含む）26名
- ・後期課程（校長，市費教員含む）18名

前期課程		後期課程		前後期合わせた職員	
60代	5	3	3	60代	8
55～59	2	4	4	55～59	6
50～54	6	2	2	50～54	8
45～49	2	2	2	45～49	4
40～44	2	0	0	40～44	2
35～39	1	2	2	35～39	3
30～34	3	0	0	30～34	3
25～29	2	2	2	25～29	4
20～24	3	3	3	20～24	6
	26		18		44

(2) 非常勤講師・市職員等

- ・免外解消（後期課程）家庭科，美術科，保健体育科 3名
- ・初任研後補充（前期課程）2名，（後期課程）国語科1名
- ・心のケア支援員（後期課程）1名
- ・スクールカウンセラー（前期課程）1名，（後期課程）1名
- ・ALT（前期課程）非常勤2名，（後期課程）1名
- ・学校補助員（前期課程）2名，（後期課程）1名
- ・業務員（前期課程）1名，（後期課程）2名

計 18名
合計 62名

(3) 勤務の実態

大崎市，登米市，一関市からの職員も多いが，概ね余裕をもって出勤し，中には自主的に毎朝通年で交通安全指導を行う職員もいる。

中学校の部活動についても，栗原市の部活動ガイドラインに従い，生徒の健康状態に配慮するとともに，職員自身も疲労回復を図るよう努めている。

在校時間の縮減を図るため，昨年度まで，職員から募集した業務改善に全員で取り組み，働き方改革につながる成果が徐々に現れてきている。

主な取組としては，「定時退庁日の設定」と「在校時間の見える化」を実施した

「定時退庁日の設定」は，水曜日を定時退庁日とし，部活動を行わず職員会議等の会議の日に当てた。できるだけ会議も効率よく行い，徐々に定着している。

「在校時間の見える化」は，職員会議資料に市全体の在校時間の状況と本校を比較したグラフを示し，実感を伴いながら自己啓発するよう働きかけた。昨年度末の平均在校時間は小学校で約25h，中学校で36h。前年度比，小学校では約21.1%削減，中学校で21.7%削減できた。

また，今年度より，前期課程の学校徴収金を割賦集金とし，業務の簡素化と，同時に事故防止を図った。

(4) 教科の研究目標

「自ら学び，自ら考え，確かな学力を身に付ける児童生徒の育成」

～自己の考えを広げ，深める対話的な学びをとおして～

昨年度は，教員全員が研究授業を行い，授業力の向上に努めた。今年度は，教科別のグループを作り，前期課程と後期課程が一緒になった協働の授業づくりに取り組む。

2 学校の実態・課題

(1) 児童・生徒

① 児童生徒数

前期課程 286 人，後期課程 131 人，計 417 人。

② 全国学習状況調査から

一昨年の全国学習状況調査の結果から見えた姿は，学習面では，応用力を試す問題が苦手である。

多くの子供たちが家庭学習に取り組んでいるが，時間は短めである。

「いじめは絶対に許されない」気持ちが，県・全国平均を 10 ポイント上回っており，思いやりのある子供たちと言える。

英語の授業は分かりやすく内容も高く評価しているが，日常で使う機会も少なく，将来積極的に使う必要性を感じていない子供が多い。他教科でも同じような傾向がみられる。

このように優しく思いやりがあり学習にも前向きに取り組んでいる子供たちであるが，もう一歩踏み込んで学習に取り組ませたいと考えている。

	令和3年度			令和4年度	
	児童・生徒数	学級数	市弾力化	児童・生徒数	学級数
1年	43	2		45	2
2年	47	2		43	2
3年	41	2		47	2
4年	49	2		41	2
5年	49	2		49	2
6年	48	2		49	2
小計	277	12	0	274	12
知的	3	1		3	1
自情	4	1		4	1
肢体	2	1		1	1
小計	9	3	0	8	3
合計	286	15	0	282	15
7年	45	2		48	2
8年	41	2		45	2
9年	40	1	1	41	2
小計	126	5	1	134	6
知的	2			1	1
自情	2			1	1
肢体				1	1
難聴	1			1	1
小計	5	0	0	4	4
合計	131	5	1	138	10
総計	417	20		420	25

③ 児童生徒のアンケートから

「学校に行くのを楽しみにしている」「学校の授業がよく分かる」「自分の学級が楽しい，安心して過ごしている」「相手の気持ちを考えて行動している」が約 90%。「自分の考えをはっきり伝えることができる。」が 80% を下回り，今後力を入れたいところである。

(2) 保護者アンケートから

① 開かれた学校

「開かれた学校」についての肯定的な回答は 89%。学校の教育方針や重点課題，特色などについて伝わっているという回答は昨年度より 7% 上回った。



② 学習指導

「学習指導」についての肯定的な評価は，一昨年度の 4% 増から更に昨年度は 3% 増となった。「楽しく分かる授業づくり」も 3% 増であった。

③ 生徒指導

「生徒指導」に関する肯定的な評価は，一昨年度と同等であった。しかし，「子供の心に寄り添い，成長を促すよう指導」で 87% という高い評価を示した。引き続き，児童生徒の自己肯定感を高める活動を充実させたい。

④ 進路指導・部活動

一昨年度と比較して 4% 増。進路指導，部活動共に 80% を上回った。

⑤ 家庭での子供の様子

一昨年に比べ 13% 増の大きな向上がみられた。特に，「自分からあいさつするようになった。」は 14% 増。「相手の気持ちを考えて行動できるようになった。」が 10% 増と高い割合を示した。逆に，「自分の考えをはっきり伝える。」と「時間を決めて家庭学習」が 80% に至っていないので，今後力を入れたいところである。

(3) 健康・体力面

昨年度の体力テストの結果から、コロナの影響が大きく、学年が上がってもこれまでのように体力面は向上していない実態が浮かび上がった。臨時休業中もオンラインで啓発を図り、家族を巻き込んでの縄跳びの取組や、業間の時間に「フレンドリー外遊び」を企画し、子供たちが体を動かしたくなるような仕掛けづくりに取り組んだ。

健康面では、虫歯の罹患率が減る傾向にあるが、要治療の子供たちの治療の後押しが必要である。

3 生徒指導の実態

生徒指導上の諸問題に対して、担任を中心としながら粘り強く対応している。生徒一人ひとりに適切に対応していくためには保護者・関係機関との連携が不可欠である。学校全体で次のことを確認している。

(1) 組織的な生徒指導

担任一人に任せず、組織としてかかわることで、必要に応じて関係機関につなげるなど、効果的でスピード感のある対応を心掛けている。また、このことで、体罰や不適切な指導の防止を図る。

(2) 児童生徒及び保護者に寄り添った指導

児童生徒及び保護者に寄り添い、学校と同じ方向を目指しながら子供を導く指導を心掛けている。

(3) 不登校児童・生徒の現状

① 前期課程

不登校傾向 5年生1名（今年度は解消している）

別室登校 6年生1名

② 後期課程

不登校 8年生1名 9年生1名

不登校傾向 8年生2名 9年生1名（いずれも今年度は解消している）

4 重点的な取組

このような実態と課題から、本校では今年度次の3点に重点を置き、学校運営に取り組むことを確認しました。

「自己肯定感を向上させる」

「家庭学習の時間を増やす」

「自分の考えをはっきりと伝える」

様々な活動を通してやり遂げた達成感や、家庭学習などの普段の頑張りも認め自己肯定感を持たせたい。また、人前で発表する経験を通して、自分の考えをしっかりと伝えられる力を身に付けさせることで、自信を持って主体的に考え行動できる子に育てたいと考えている。そして、このことによって、学力向上、体力の向上に努めていきたい。

また、この3点については、学校全体の課題を集約したものであり、細かな点については年度当初に職員で共有を図った。学校だよりや学年だより、保護者との面談や連絡ノートでの情報交換等を通じた絶え間ない啓発の努力。また、あらゆる学校の教育活動をとおして、教職員全員が同じ目標に向かって、具体的な進捗や達成状況を共有しながら運営に当たりたいと考えている。

さらに、児童生徒を支えていただき、活躍させていただく場、地域の人々との交流から将来の担い手として育てる場として、「金成ふるさと本部」を校内に設置する。これまでの学校支援の窓口を一本化して教員の負担軽減を図るとともに、今後の地域学校協働活動の活性化に向け、地域学校協働本部の土台となるネットワークを構築する。

地域との協働イメージ図

金成ふるさと本部 (緩やかなネットワーク化)

- ・ 読み聞かせサークル
- ・ 見守り安心安全隊
- ・ 婦人会
- ・ ホタル保存会
- ・ リンゴ農家
- ・ 稲作農家
- ・ 和楽器演奏家
- ・ 自治会
- ・ e t c

地区で夏祭りを計画しているので、小中学生にボランティア参加してもらえないだろうか

相談
調整

依頼
調整

校内地域連携担当者(コーディネーター役)

地域の団体・個人

金成小中学校

子供たちに読書の楽しさを感じてもらいたいです。定期的に読み聞かせをしてもらいたい

地域の歴史や環境のことについて知りた
いけど...

職業体験や農業体験を実施したい

1 学年

2 学年

3 学年

4 学年

5 学年

6 学年

7 学年

8 学年

9 学年